

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

秋田県 男鹿市立男鹿東中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 2019年9月26日 (木)

■ク ラ ス : 2年A組 (29名)

■オリンピアン : 宮嶋 克幸 先生 (スケルトン) 【出場オリンピック/平昌大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日はオリンピックの価値が身近にあることを学んでいく、と授業の目的を確認。
- ・運動の時間は、エクセレンス、フレンドシップ、リスペクトを頭のかたすみに入れながら取り組むことを約束。
- ・準備体操として、ストレッチ、じゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・そりレーを5班対抗で実施。(全4回)
- ・2人組で1人がそり(バスマット)に乗り、もう一人が紐を引っ張りながら進み、折り返し地点で役割を交代する。
- ・各回終了後に作戦タイムを設け、より早くゴールできる方法を話し合う。

4. まとめ



- ・授業の冒頭に頭のかたすみに入れておくことを約束した、オリンピックバリューが意識できていたかを確認。
- ・そりレーの中に多くのオリンピックバリューの要素が入っていたことを説明。
- ・座学の授業では、授業でさらに詳しく説明していくと伝え、運動の時間に話し合ったことを忘れずに教室に戻るよう指示し、授業終了。

■授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・自身の競技映像を見せながらスケルトンについて解説。その後近代オリンピックの歴史やクーベルタンについて説明。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、一生懸命頑張る、全力で頑張る」、「フレンドシップ＝友情、話し合い、お互いを理解、仲間と協力」、「リスペクト＝敬意／尊重、感謝、フェアプレー、思いやり、ルールを守る」と説明。

3. グループワーク



- 発問：部活に入っている人は、大会等で目標を達成するためには何が必要か、どのようなことを意識すれば良いか書き出してみよう。
 ※それ以外の人、身近な目標(勉強、テスト、習い事等)で目標を達成するために、どのようなことを意識すれば良いか書き出してみよう。
- 発表：各班代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)
 「体づくり」「試合が終わるまであきらめない」「ベストを尽くす」「大変な練習でも一生懸命頑張る」(エクセレンス)
 「団結力を高める」「相手の良いところも悪いところも指摘し合う」(フレンドシップ)
 「先生に感謝」「ルールを再認識」「チームメイトのミスをカバーする」「相手をたたえる」(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューが今後の学校生活や日常生活にも活かせるものであること理解できたかを確認。
- ・オリンピックはトップアスリートだけのものと思われがちだが、その「価値」を意識することでより良い中学校生活を送れる。
- ・宮嶋先生の競技で使用しているヘルメットやシューズ、平昌大会で使用したADカード等を披露し、授業終了。

実施内容

■期 日 : 2019年9月26日 (木)

■ク ラ ス : 2年B組 (30名)、2年C組 (29名)

■オリンピアン : 出島 茂幸 先生 (スケート/スピードスケート) 【出場オリンピック/バンクーバー大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピックが決して遠いところにあるものではなく、皆の身近にあることだということを知ってもらいたい、と授業の目的を確認。
- ・オリンピックバリューについて説明し、運動の時間は特に「エクセレンス＝全力で頑張ること」を意識して取り組むことを約束。
- ・ダイナミックストレッチ、じゃんけん勝ち抜きを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・スケートリレーを5班対抗で実施。(全3回)
- ・スケートの代わりに、スリッパ、ニット帽、レッグウォーマー、エコバッグのアイテムから各班1つを選択し、アイテムを履いた片足を滑らせながら進む。
- ・各回終了後に作戦タイムを設け、より速くゴールするための方法を話し合う。

4. まとめ



- ・タイムが速い、遅いは結果として出てしまうが、大切なことは「全力」でチャレンジできたかということにある。
- ・次の人のことを考えて行動したことはフレンドシップであり、皆で協力し、工夫して考えることはこの先に繋がる。
- ・次の座学の時間では、出島先生の経験を通じて、さらにオリンピックバリューについて詳しく説明していくと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・自身の競技映像を見せながらスケートについて解説。
- ・オリンピックバリューの意味について、「エクセレンス＝「卓越、全力、一生懸命、ベストを尽くす」、「フレンドシップ＝友情、仲間、チームワーク」、「リスペクト＝敬意／尊重、感謝、フェアプレー」と説明し、運動の授業で感じられたオリンピックバリューを振り返る。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：みんなにとって東京オリンピックは「何」オリンピックなるかそれぞれ「テーマ」を考えてみよう。

発表：各班全員が起立して発表。（抜粋、順不同）

- 「EFRオリンピック(3つのオリンピックバリューに注目したい)」「食べ放題のオリンピック(色々な国の食べ物を食べてみたい)」「良いところを吸収オリンピック」「考えるオリンピック(自分がやっている競技を見て実践できるように学ぶ)」「エクセレンス」「実践オリンピック(選手の良い所を学び実践する)」「フレンドシップ」「フェアプレーンピック(フェアプレーや知らない競技を知ること意識して見る)」「精神面を知るオリンピック」「リスペクト」

4. まとめ



- ・東京2020大会では、このオリンピックバリューを踏まえてオリンピックが開催されているところを感じてほしい。
- ・自分達が取り組んでいる様々事に取り組む際には、オリンピックバリューを思い出してほしい。
- ・「感謝」することはとても大切なことなので、今日帰宅した際には家族に「ありがとう」と言う伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年A組



2年B組



■ 集合写真
2年C組



■ 記念品贈呈
2年A組



2年B組



2年C組



■ 修了証贈呈

